

# 沖縄県平和祈念資料館だより



## 「未来を展望するゾーン」で感じて考えて

2000年4月に開館した沖縄県平和祈念資料館の常設展示をご覧になった方の数が2009年11月で延べ400万人を超えました。観覧者の約6割は修学旅行などで訪れる児童・生徒の皆さんです。県内では小学5、6年生が多数で、県外からは中・高校生が多く訪れます。希望する学校には、当館職員やボランティア友の会による平和講話や沖縄戦体験者の体験談などをお聞かせしています。

ところで、当館には、「1 住民の見た沖縄戦の実相を次代へ伝える」「2 沖縄の視座から平和を発信する」のふたつのねらいがあり、1から2へと繋げる仕掛けがあります。それは、2階常設展示室を出た瞬間に目に飛び込む明るい光の空間「海と礎の回廊」です。沖縄戦を伝える常設展示をご覧になった皆様は、重く暗い沖縄の歴史から一転、太平洋の大海原と弧を描く水平線を臨み、打ち寄せる白波と青く広がる無限の空の美しい景観にホッと、「平和な今」を強く意識されるはず。明るい平和な未来が続くことを願わずにいられないはず。そして、平和な世界を創るために自分にできることは何か、と考えたならしめたものです。

海と礎の回廊からゆるやかなスロープを下ると、「未来を展望するゾーン」と位置づけた1階に、「子ども・プ

ロセス展示室」と「情報ライブラリー」があります。そこには、いのちが危険にさらされている国々があること、平和を脅かす様々な問題があることなどに気づき、平和を脅かす問題に対してどんな取り組みがあるか、平和を創り上げていくには、そのために自分にできることは何かなどなど考えるきっかけ展示が数多くあります。また、平和に関する各種情報、沖縄戦体験者の証言映像や平和に関するビデオ等を見ることが出来ます。

戦後65年となり、戦争を知らない世代が社会活動の中心となっていく中で、県民個々の戦争体験を結集して設置された当館の存在意義は益々高くなり、世界平和に結びつく活動も一層求められます。「未来を展望するゾーン」では、平和は一人ひとりのライフスタイルに関わっていることをしっかりと伝え、学んでいただける展示、情報の集積に努めています。

次代を担う子どもたち、彼らを育てる大人たち、2階常設展示を観覧される全ての皆様に、是非、「未来を展望するゾーン」を訪れていただき、「いのち」を感じ、「平和を創る」ことなどについて考えていただきたいと思います。

沖縄県平和祈念資料館 館長 大川 芳子

## 第10回 特別企画展の開催報告

第10回特別企画展「イクサユヌワラビ～戦時下の教育と子どもたち～」を、平成21年10月10日(土)～12月13日(日)に本館(企画展示室)、平成22年1月19日(火)～2月26日(金)八重山平和祈念館に於いて開催しました。

今回の企画展では、教育と子どもたちに焦点をあてました。戦争へと突き進んだ戦時下の教育とはどのようなものだったのか、銃後を守る一員として犠牲を強いられた子どもたちの生活はどのようなものだったのか。「教育勅語」「奉安殿」「八紘一宇」「国民学校」「少国民」「学徒動員」「学童疎開」など現在ではほとんど用いられない言葉をキーワードに展示を構成しました。展示資料は、県内の戦前、戦中、戦後

の教育や子どもに関わる実物資料及び証言としました。展示対象の期間は、主に1941年国民学校が発足してから沖縄戦までとしました。プロローグとして明治～昭和の教育の概要、エピローグとして米軍占領下の教育にそれぞれ触れました。また、観覧者に分かりやすいようにテーマごとに6つの持ち帰り解説シートを作成しました。開催にあたり、養秀同窓会、城岳同窓会をはじめとする各同窓会、県内多数の資料館、博物館等から貴重な資料を多数借用させていただき、充実した資料展示を行うことができました。10月10日の企画展オープニングセレモニーは、糸満市長をはじめ大勢の出席者のなか行われました。



本館の開会式(10月10日)



観覧風景

## 沖縄戦講座の報告

日時:平成21年11月14日(土)  
場所:沖縄県平和祈念資料館 2階会議室  
受講者:85名

第10回特別企画展「イクサユヌワラビ～戦時下の教育と子どもたち～」の関連催事として沖縄戦講座を開催しました。講師は、県立宜野湾高等学校教諭で沖縄歴史研究会代表新城俊昭氏。演題は「教育と戦争～ガマの闇から見たアライウミ ヒロイソラ～」でした。沖縄戦を教育の視点から考察した講話でした。近代以降の沖縄の歴史と帝国主義・軍事政策を歩む日本との関係や教育の果たしてきた役割、民主主義の大切さ、教科書問題、平和教育の大切さと難しさなど幅広い話題で感動的な講話でした。次年度も企画展に関連した講座を予定していますので、多くの受講をお待ちしています。



新城俊昭氏の講話

## 子どもプロセス企画展開催報告

### 子ども・プロセス企画展

この企画展は、平和の創造は、一人一人の心からはじまることを伝えます。仲間どうしや親子で語り合える場が作れるようにと、7つのテーマを設定しました。①児童・生徒の平和メッセージ秀作展(2006～2008)②沖縄戦と子どもたち③沖縄から核の廃絶を求めて④「国際理解を考える」貸出キット展⑤県庁・警察部壕(シッポウジヌガマ)⑥平等ってなんだろう?⑦いのちのかがやきです。各団体の協力をいただいで関連催事も5回開催することができました。



第5回会場



特別イベント

## ○ JICA連携事業「沖縄・カンボジア『平和博物館』協力」報告 ○

10月13日から11月6日まで約1ヶ月間、当館初の本格的な国際貢献であるカンボジア「平和博物館」協力事業を実施しました。この研修にはカンボジア国立トゥール・スレン虐殺博物館のチェ館長以下、企画担当のケオさん、文書担当のジーンさん、写真担当のチェイさんの4名が参加しました。館内外で午前10時から午後4時まで1コマ2時間、延べ36コマの講義を構成し、理論と実践的な研修を行いました。研修の一環でトゥール・スレンのスタッフによる写真展も開催しました。研修最終日には、各研修員がアクションプランを発表し、企画展の開催や写真、文書整理の上で具体的な当面の目標設定がされました。2月15日から26日まで当館職員2名が現地においてアクションプランのフォローアップを行いました。その確実な履行が期待されます。この事業は平成23年度まで行われます。



11月4日の写真展「カンボジアの歴史と文化」展の開会式  
(右から木下JICA沖縄所長、杉浦糸満市副市長、チェトゥール・スレン虐殺博物館館長、知念県文化環境部長、大川館長)

## ○ 平成21年度博物館学芸員実習の総括 ○

8月6日(木)から14日(金)、正味7日間の博物館実習を実施しました。実習生は4名。受入れた大学は、京大文教大学2名、茨城大学、沖縄国際大学各1名。

資料収集活動、資料保存活動、調査研究活動、展示活動、教育普及活動、管理運営活動の5つの活動をバランスよく行うことにより、より実践的実習のあり方や実習生の主体性を尊重するとともに緊張感のある実習を心がけたいものです。次年度は展示解説ガイド、ミニ展示企画などの実習も盛り込みたいものです。



最終日の成果発表会の様子

## ○ 職場体験の報告 ○

### 小学生の職場体験

沖縄県教育委員会の指針である「キャリア教育の充実」を支援するために、小学校が実施する「チャレンジデー」を受け入れました。1日の日程でしたが、展示パネル作りや受付と警備などの業務を体験しました。また、ひめゆり平和祈念資料館の協力をいただき施設見学を行い、当資料館との違いなどを調べました。

7月8日(水)西原町立坂田小学校6年生(児童3人)



受付業務



警備業務

## 平成21年度 資料貸出状況

平成21年度の資料(実物資料・写真・沖縄戦の絵)貸出は、県内14団体175点、県外13団体279点、合計27団体454点でした。昨今は、県外の公共団体や学校からの申請が多くなっており、年月が経た今、沖縄戦に対する関心度が高くなっていると思われます。

沖縄県平和祈念資料館では、実物資料や沖縄戦写真パネル以外にも、戦争体験者が描いた「沖縄戦の絵」パネル(52点)、戦争体験者証言集、児童・生徒の平和メッセージ展入選作品パネル、また世界人権宣言絵画パネル(一式35点)なども貸出ししておりますので、これらの資料も県内外において平和学習にご活用いただきたいと思います。

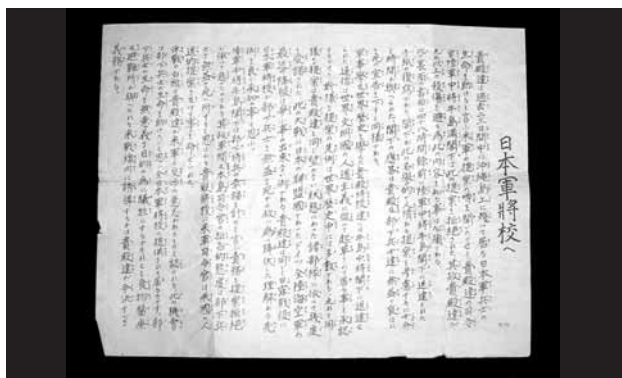
## 平成21年度 寄贈品紹介

沖縄県平和祈念資料館では、戦争を知らない戦後世代へ悲惨な戦争の教訓を語り継いでいくために、戦争関係の資料や戦前・戦中・戦後の資料の提供を呼びかけています。平成22年2月末現在で寄贈をいただいたのは、32人の方々から3,359点でした。これらの資料は、平成22年6月に開催予定の新収蔵品展で一般公開をいたします。一般公開することで、さまざまな情報提供につながり、今後の提供や活用に必要な効果が生まれます。

寄贈資料の一部を紹介します。なお、書籍に関しては、当館の情報ライブラリーで閲覧できますのでご利用下さい。当館はこれからも、戦前・戦中・戦後の資料のご寄贈ならびにご寄託の収集事業を継続してまいりますので、ご協力下さいますようお願いいたします。



氷嚢(旧日本軍の陣地壕から見つかる) 稲福 勉様



投降ピラ 井上 雍雄様



石垣尋常高等小学校 通告帳(昭和15年度) 西大 正英様



軍人が使用したと思われる鞆(鹿皮製) 小林 万里様

# 第20回 児童・生徒の平和メッセージ(図画・作文・詩) 作品募集要項

## 1 募集対象

沖縄県内の小・中学校及び高等学校、高等専門学校、特別支援学校の児童・生徒

## 2 応募方法

### <各部門共通>

- 作品はすべて所属の学校を通して応募する。
- 図画・作文・詩ともに未発表作品で、各分野につき一人一点とする。
- 学校名、学年、氏名(フリガナ)、題名を必ず応募ラベルに記入する。

### <図画部門>

- 市販の画用紙(四つ切り、38cm×54cm)を使用する。
- 画材、表現方法等は自由であるが、立体作品は避ける。
- 図画には文字のメッセージは入れない。

### <作文部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B 4 サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。
- 小学校低学年は原稿用紙 2 枚程度、小学校中学年は 3 枚程度、小学校 高学年は 4 枚程度、中学生及び高校生は 5 枚程度とする。作品は清書して提出する。

### <詩部門>

- 原稿用紙は、400字詰め・B 4 サイズ・縦書きの市販の用紙を使用する。
- 枚数は特に指定しない。

## 3 募集期間

平成22年5月1日(土)～5月25日(火)

## 4 作品の送り先

〒901-0333 糸満市摩文仁614番地 1

沖縄県平和祈念資料館

電話:098-997-3844・FAX:098-997-3947



平成21年度図画部門  
小学校の部最優秀賞  
竹富町立西表小学校 3年  
岡田 慎ノ介

## 沖縄県平和祈念資料館開館10周年記念特別企画展 「沖縄のこころを世界へ」

1). 期 間 平成22年10月10日(日)～12月12日(日) 沖縄県平和祈念資料館  
平成23年 1月19日(水)～ 2月26日(土) 八重山平和祈念館

2). 場 所 沖縄県平和祈念資料館 企画展示室  
八重山平和祈念館 第2展示室

3). 趣 旨 今年には住民を巻き込み多くの犠牲者をだした沖縄戦から65年、開館10年目の節目の年となります。そこで、今回の記念特別企画展では当館の10年間の歩みをふりかえるとともに、新たな10年に向けての当館活動を展望し、平和教育の拠点施設としての成長を考える機会とします。



# 八重山平和祈念館 平成21年度 事業実施報告

## (1) 夏休み平和学習会

期 間：平成21年7月19日(日)～8月30日(日)

夏休みの平和学習会として、平和や人権に関する自由研究についての相談会を実施しました。体験学習コーナーでは、①折り鶴で平和メッセージを作ろう！②世界地図を使ってマラリアについて学ぼう をテーマに、たくさん子どもたちが平和の尊さや世界のマラリアの状況について考えました。

また、終戦記念日にあわせて「戦争マラリア体験談講話会(講師：玉城功一氏)」を開催し、多くの方が戦争マラリアの悲惨な実相に耳を傾けていました。



夏休み体験学習 「折り鶴で平和メッセージ」

## (2) 「島守の塔除幕式及び第1回慰霊祭写真展」

期 間：平成21年8月21日(金)～9月6日(日)

沖縄戦で犠牲になった468人の県職員が祀られた「島守の塔」の除幕式と慰霊祭が1951年に行われ、その様子を収めた貴重な写真の展示会を(財)島守の会協力のもと開催しました。終戦直後に物資が不足する中で行われた除幕式と慰霊祭の様子を見に、多くの方にご来場いただきました。



島守の塔写真展 「開会式でのテープカット」

## (3) 八重山平和祈念館10周年記念企画展「第1回収蔵品展」

期 間：平成21年10月1日(木)～10月31日(土)

開館10周年を記念し、平成17年度に開催した「第1回収蔵品展」以降に収集した資料や寄贈された資料を展示しました。戦中使用していたもんぺ、従軍看護婦の赤十字のカバン、ジユラルミン製の炊事道具などの展示品から戦争が八重山の生活に及ぼした影響を感じて頂き、改めて戦争の悲惨さと命の尊さについて考える機会となりました。



収蔵品展 「戦中・戦後の生活道具」

## (4) 第10回特別企画展「イクサユヌワラビ～戦時下の教育と子どもたち～」(八重山会場)

期 間：平成22年1月19日(火)～2月26日(金)

戦前・戦中・戦後の教育と子どもたちをテーマに、本館で開催された特別企画展を八重山平和祈念館にて開催しました。

当時の国民学校の通知表、学徒隊での体験談、奉安殿の前で最敬礼する子どもたちの写真など八重山の資料を盛り込んで展示し、多くの方に見ていただきました。特に、当時たくさん苦難と犠牲を強いられた「イクサユヌワラビ」だった方々は「二度と戦争はしてはいけない」という思いを子どもたちに向けて強く語っていらっしゃいました。



イクサユヌワラビ 「観覧風景」

### 《連絡先》

住 所 〒907-0014 沖縄県石垣市新栄町79番地の3

URL <http://www.pref.okinawa.jp/yaeyama-peace-museum/>

TEL/FAX 0980-88-6161

E-mail [yaeyamaheiwa-mararia@basil.ocn.ne.jp](mailto:yaeyamaheiwa-mararia@basil.ocn.ne.jp)

# 沖縄県平和祈念資料館友の会活動状況

平成21年度活動状況(平成21年4月～平成22年2月)

## (1)活動状況

|      | 学校団体数(件) | 生徒人数(人) | 派遣ガイド人数(人) |
|------|----------|---------|------------|
| 高等学校 | 38       | 8,709   | 38         |
| 中学校  | 12       | 2,523   | 12         |
| 小学校  | 10       | 4,244   | 10         |
| その他  | 9        | 211     | 9          |
| 合計   | 69       | 15,687  | 69         |

## (2)県内学校講話実績

|     |      |           |            |            |    |                   |
|-----|------|-----------|------------|------------|----|-------------------|
| 沖縄県 | 高等学校 | 3件        | 生徒数 2,690人 | 中学校        | 2件 | 生徒数 490人          |
|     | 小学校  | 10件       | 生徒数 4,176人 | その他        | 4件 | 生徒数 100人          |
|     |      | <b>合計</b> |            | <b>19件</b> |    | <b>生徒数 7,456人</b> |

## (3)常設展示解説員案内人数 …のべ216人

## (4)その他の活動

平成21年5月23日(土)午後1時～4時30分  
「フィールドワーク・学習会」:ウフ壕 午後1時～3時  
総会:午後3時30分～4時30分

平成21年10月2日(金) 午前10時～11時  
平和祈念公園愛護活動  
公園内清掃・蝶食草(ホウライカガミ)の植栽

平成21年10月22日(木) 沖縄・カンボジア「平和博物館」協力事業  
「フィールドワーク・研修」摩文仁周辺の慰霊塔・沖縄戦と基地

平成22年2月11日(木)午後2時～4時  
「フィールドワーク・学習会」吉嶺全一氏の戦争体験  
(平和祈念公園及び周辺)

平成22年2月20日(土)8時15分～16時30分  
「大田昌秀氏語る・少年たちの沖縄戦の講話」講演会参加

## 平成22年度 沖縄県平和祈念資料館年間行事

|     | 展示会   | 催し物など   |
|-----|---|---|
| 4月  |   |   |
| 5月  |   | ◆5日(水)<br>子どもの日ビデオ上映会   |
| 6月  | 新収蔵品展<br>6月15日(火)～7月31日(土)  | ◆19日(土)第14回糸満市平和祈念祭<br>◆23日(水)慰霊の日 沖縄戦関連ビデオ上映会 <b>入館料無料</b>                           |
| 7月  | 児童・生徒の平和メッセージ展<br>6月23日(水)～7月8日(木)<br>本館7月14日(水)～28日(水)<br>八重山8月9日(月)～13日(金)<br>県庁県民ホール | ◆夏休み期間中<br>自由研究相談室  |
| 8月  |   | ◆夏休み子ども向け企画 8月7日、14日、21日<br>ビデオ上映会・親子平和学習会・自由研究教室                                     |
| 9月  |   |  |
| 10月 | 特別企画展<br>開館10周年記念特別企画展「沖縄のこころを世界へ」<br>10月10日(日)～12月12日(日)                               | ◆11月中<br>沖縄戦講座  |
| 12月 |   |   |
| 1月  | 特別企画展 八重山分館移動展<br>開館10周年記念特別企画展「沖縄のこころを世界へ」<br>1月19日(水)～2月26日(土)                        | ◆2月17日(木)<br>資料館講習会   |
| 2月  |   |   |
| 3月  |   |   |

# 入館者400万人目突破!

## 入館者400万人目

開館以来、県内外から多くの皆様が当資料館を訪れています。平成21年11月18日(水)には、平成12年4月の新築移転以降、400万人目のお客様が訪れました。

今後も資料館では、より一層、展示・事業の充実を図り、平和を発信する役目を担っていかうと考えています。皆様のご来館を心からお待ちしています。



山梨県甲府湯田高等学校2年 太田絢也さんと大川館長

### コメント▶

「400万人目と言われてびっくりした。沖縄に来て知った平和の尊さを忘れずに、大切にしていきたい。」

## 第19回児童・生徒の平和メッセージ「詩部門 高等学校の部 最優秀賞」

沖縄県立球陽高等学校3年 仲地 愛

### 小さな島から世界へ

照りつける太陽  
頬を流れる汗  
道なき道を進む  
生い茂る雑草と月桃の花  
その奥には暗いガマ  
足が震え立ちすくみ  
胸の鼓動が激しく打つ  
身動き出来ない私に  
ガマの奥から問いかける  
この小さな島は  
平和でしょうか…

私はそれに答えることが出来なかった

真っ直ぐな瞳が呼びかける  
壁面に掛けられた犠牲者の遺影  
その一人ひとり見つめ合う  
私と同じ歳  
セーラー服の少女  
真っ直ぐ見つめるその目が  
私の心に問いかける  
この小さな島は  
平和でしょうか…

私はそれに答えることが出来なかった

少女は語る  
もっともっと生きたかった  
友と夢を語り合いたかった  
夢に向かって学びあいたかった  
その夢も戦争の足音とともに消えた  
備ついた兵士を救うため  
何の疑念も抱かず戦場に向かった  
砲弾が飛び交う戦場で  
次々に友の命が消えた  
私達は知っている  
戦争の恐ろしさと思かさを  
私達の命を無駄にしないで  
平和であることの大切さを考えて  
今の見かけの平和に気付いてと

小さな島に  
振り落とされた鉄の雨  
六十年余たった今も  
土の奥深く潜む鉄の塊  
数知れない不発弾  
穏やかな穏やかなある日  
鉄の塊はついに火を噴いた  
この小さな島が  
地震きをたてて揺れた  
六十年余前の悲劇を思い出してと  
この島が焼き尽くされた日を  
忘れないでと  
小さな島からのメッセージ

小さな島の人たちの心が揺れた  
そして誰もが再び語りはじめた  
六十年余前の真実を  
忘れてはいけぬ真実を  
孫の手を握り語った  
炎がああ青い空を真っ赤に染め  
逃げまどう親子に  
遅いかった炎と砲弾の雨  
緑の大地が焼き尽くされたことを  
尊い命が焼き尽くされたことを  
この小さな島が焼き尽くされたことを

六月二十三日  
祖母の手を引き  
平和の礎へ  
しわだらけの祖母の手と私の手が  
礎に刻まれた家族と重なる  
汗と涙 震える胸  
祖母からのメッセージを  
礎からのメッセージを  
私はしっかり受け止める  
戦争の愚かさや平和の尊さを  
小さな島からのメッセージを  
私はしっかり受け止める

真実から目を背けない  
海の向こうでは  
争いで飢えに苦しむ人々がいることを  
争いで銃を持たなければならない  
子供達がいることを  
今もなお繰り返される  
戦争という最も愚かなことから  
目を背けない  
私はしっかり考える  
戦争の愚かさや平和の尊さを  
この小さな島からのメッセージを  
私はしっかり考える

果てしなく続く青い空  
風に揺れる月桃の白い花  
よせては返す白い波  
頬をなでる優しい潮風  
平和の祈りにつまれる島  
白い波と潮風に乗せて  
世界へ届けたい  
小さな島の思いを

I want to send the message  
to the world,  
the message from this small  
island.

編集・発行：沖縄県平和祈念資料館

住所 〒901-0333 沖縄県糸満市摩文仁614番地の1  
URL <http://www.peace-museum.pref.okinawa.jp/>

TEL 098-997-3844 FAX 098-997-3947  
E-MAIL [webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp](mailto:webmaster@peace-museum.pref.okinawa.jp)